

公開講座「特別企画 邪馬台国とヤマト王権」の開催

平成28年9月10日（土）、史料編纂所の公開講座「特別企画 邪馬台国とヤマト王権」を開催しました。講師は本学研究開発推進センター副センター長の荊木美行教授、仏教大学等非常勤講師の若井敏明先生のお二人、会場は皇學館大学佐川記念神道博物館講義室です。一般の方にも関心の高い「邪馬台国」をテーマとしたこともあり、10時開始のところ、9時から熱心な参加者が来場されました。

荊木美行「邪馬台国の所在地－若井敏明『邪馬台国の滅亡』にふれて－」

荊木先生の講演では、邪馬台国の所在をめぐる大和説・九州説を紹介しながら、倭人伝の行程の読み方・比定地についてじっくり説明いただきました。行程のなかでカギとなる伊都国の位置づけ、筑後川中流域への注目を披露され、あわせて若井先生のご著書『邪馬台国の滅亡』にふれるかたちで、ヤマト王権の成立と邪馬台国についての論点を提供されました。

若井敏明「黎明期のヤマト政権」

昼食をはさんで、いよいよ若井先生のご講演です。纏向遺跡（奈良県桜井市）を邪馬台国ではなく、ヤマト王権初期の王宮とみる評価が導入です。

そこから、「^{けっしはちだい}闕史八代」の王名・婚姻関係を検討して、奈良盆地南部の小首長がやがて河内、丹後と婚姻を広げ、崇神朝での拡大へとつながる歴史過程を描き出されました。鮮やかな「闕史八代」の系譜分析は、まさにヤマト政権の黎明期を、文献史学の立場でとらえる試みです。

いっぽう邪馬台国の所在は、のちの筑後国山門郡にあたる地域に想定され、その後裔勢力は景行天皇のときに征服されたと説かれます。また北部九州での踏査経験を交え、^{ぎおんやま}祇園山古墳（福岡県久留米市御井町）を卑弥呼の墓の候補として紹介されました。この古墳は筑後の名社・高良大社に近く、周囲に甕棺墓・土壙墓があるものです。



若井先生のご講演

休憩のあと、講演を踏まえた質疑討論を行いました。

北部九州では一致するおふたりですが、さらに具体的な候補比定をめぐって議論が深められます。また邪馬台国東遷説をどのようにとらえるのか、箸墓古墳の年代観（正確には、箸墓古墳の土器から推定された年代観）への疑義、「卑弥呼の鏡」とされる三角縁神獸鏡の位置づけ、祇園山古墳の性格など、会場も交えて熱気のある討論が行われました。質疑の時間を延長したほどです。



討論での両先生

考古学などを中心に、邪馬台国大和説があたかも定説であるかのように喧伝される今日、もういちど記紀などの国内文献を読み深め、日本の古代国家形成を展望した本公開講座は、意義あるものになりました。研究者の率直な意見を直接うかがえたことは、なにより嬉しい機会だったのではないのでしょうか。

これも講演くださった荊木先生・若井先生、また参加くださったみなさまのおかげです。あらためて厚くお礼を申し上げます。